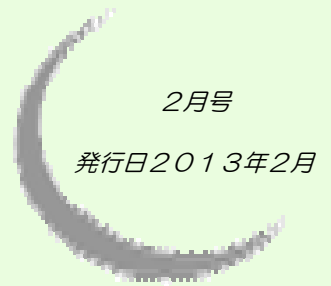




ユニ総合計画の グリーンレポート

1級建築士 秋山英樹
不動産コンサルタント



2月号

発行日2013年2月

「太陽光発電所を造りました」

昨年の11月から12月にかけて、南八ヶ岳で太陽光発電所を造りました。太陽光パネルを乗せるのを除いては一人で12kwの発電所を造りました。250Wのパネル48枚取り付けが2人で1日半を除けば、一人で8日間で造ったこととなります。

太陽光発電所と大げさな名称で呼ぶには訳があります。経産省の申請書に発電所名を記入する欄があり、ユニ南八ヶ岳発電所と記載したからです。10kw以上の太陽光発電は事業用となり、今後20年間1kw42円で買い取ってもらえることが約束されています。電気料金は1kw23円位ですから倍近くの料金で売電できるわけです。

この再生可能エネルギーの固定買取制度は昨年の7月より特別措置法でスタートした制度で、太陽光は1kw42円、風力23.1円、小水力35.7円などとなっています。

この制度は現状1%程度の再生可能エネルギーの普及率をいかにして上げるのかが目的で作られたため、普及が進むに従い競争力がついた時には段階的に買い取り価格を下げる予定になっています。買い取り価格と電気料金の差は、最終的には消費者への負担増となり平均世帯で月87円程度の負担増となり「美味しい果実は早い者勝ち」的な制度で、自分で造っておいて言うのも変ですが、いささかおかしな制度であることは間違いないと思います。

1kw42円での買い取り保証は今年の3月31日までに申し込んだ者が対象ですから、今からでは遅いと思いますが、4月以降の買取価格は見直され37~38円といわれています。

私が作ったものは、DIYキットの315万円（税別）で、全ての部材・部品が入っていますので、基本的には誰でも簡単に作る事ができます。



作業は工場の足場で使用する単管よりやや太い直径60mmの単管を地面に打ち込んで作るのですが、私のところは山ですから、最初の0.6~0.7mは何とか打ち込みましたが、1.5m打ち

込むという説明書には遠く及ばず、30~40cmくらいはグラインダーでカットという感じです。畑なら1.5mは軽く入ると思います。単管は安全ハンマーという道具をネットで購入して(7kgタイプ14000円)打ち込みましたが、このハンマーは優れもので単管を地面に打ち込むのには非常に便利です(下部写真) これまでは、鉄のハンマーで作業していましたが打ち下ろしたときに空振りする



と危険な上、相当な体力を消耗します。これは、単管で何かを作るときにはお勧めできる逸品です。



架台ができればパネルは1日程度で設置できます。架台工事作業は一人でもできますが、パネル(約20kg)を架台載せるのは一人では無理で最低二人必要です。

と危険な上、相当な体力を消耗します。これは、単管で何かを作るときにはお勧めできる逸品です。

実際の1月の売電収入は約4万円でした。事前の年間シミュレーションでは56万円の予定です。



イニシャルコストはDIYなので何ともいえませんが、

350万円とすれば6年程度で回収の予定です。

事業的にみると今後インフレ等で通常の電気料金が42円以上に上がると、42円の固定買取制度はウマミが薄れます。しかし、イニシャルコストが変わらないので損が出ることはありません。買い取り価格が今後1割下がっても、イニシャルコストが1割下がれば、資本回収年は変わらないので、まだ投資という意味での太陽光発電事業はウマミがあり、今後も進むものと考えられます。